

名寄市地域おこし協力隊・農業支援員 Q&A (農業編)

1. 農業支援員の研修環境と支援体制などについて

質 問	回 答
農業技術について経験も乏しく、就農に向けた研修はどのように進められますか？	栽培技術に関しては、協力隊の期間中、研修先の農家さんや農業振興センターなどから直接アドバイスを受けることができます。農業支援員の希望作物を考慮しながら研修を進めています。 【基本的な研修内容】 ◇1年目は、地域の複数農家さんで、いろいろな作物を学ぶことができます。その中で、ご自身が将来どんな作物を中心に営農したいかを検討していただきます。 ◇2年目は、1年目の研修から、将来栽培したいと思う作物が決まれば、その作物を中心に栽培している農家さんの下で研修し、多くの作物を学びたい場合は複数農家さんでの研修を継続することも可能です。 ◇3年目は、これまでの農家研修を継続するか、実践研修を行うか、ご自身が就農に向けどちらが良いか関係機関や受け入れ農家さんと相談しながら選択していただきます。
研修後の指導体制などはどのようになっていますか？	北海道上川農業改良普及センター名寄支所(以下普及センター)、JA 道北なよろ(以下 JA)、市で構成する「新規就農者支援チーム」が、研修最終年から就農後5年を目途に毎月巡回を行い、生育状況や肥培管理等の指導等、研修や営農のサポートをしています。 また、身近な相談や地域とのつなぎ役など、他地域から移住された方をサポートする「集落支援員」を配置しています。 名寄市農業振興センターでは、試験栽培や土壌診断を行っており、技術的なアドバイスも随時受けることができます。また、普及センターでも同様に農業技術や作柄情報、病害虫防除などの情報を提供しています。
農業の経営についてお尋ねします。	名寄市は、1市1JA1普及センターとして農業者に連携した支援を行っています。 JAでは、組合員の営農計画の相談や生産物の出荷販売など営農面のほか、金融等生活面などもサポートしています。 また、販売につきましては、JA への出荷の他、直売所や市内のスーパー、インターネットの活用など個人で販売する方もあります。

2. 協力隊員後の就農について

質 問	回 答
<p>協力隊終了後に就農を考えているのですが、どのような形態になるのでしょうか。</p>	<p>まずは、ご自身がどんな作物を栽培したいか、年間の収入目標額はいくらかなどによって就農の形態も違ってきます。新規参入者は高収益である施設園芸（ビニールハウスでの生産）や露地野菜を希望する方が多い傾向です。</p> <p>施設園芸では、トマト、メロン、ピーマン、促成のアスパラ、花卉などがありますが、露地野菜や水稻、畑作と組み合わせるなど、土地の条件も考慮し、関係機関からもアドバイスを受けながら営農計画を作成します。</p>
<p>就農時に支援措置などはありますか。</p> <p>※名寄市新規就農者等に関する条例はこちら</p>	<p>地域おこし協力隊など、新規参入により就農する場合には、国や市などの支援が受けられます。</p> <p>(国) 経営開始資金（150万円限度・夫婦で農業経営開始の場合225万円限度）を最大3年間交付（就農直後の経営確立を支援）</p> <p>(市) ①経営準備支援助成金（就農準備や運転資金等、施設・機械導入に要する経費） ②経営自立安定補助金（規則で定めた事業により賃借した農用地の賃借料や取得した農用地等に係る固定資産税相当額の助成ほか） ③農用地等取得借入金償還利子補給金 など</p> <p>※各種支援事業には要件がありますのでご確認ください。</p>
<p>就農する場合は農地や農業機械など多額の資金が必要だと思いますが、自己資金の目安はいくらぐらいでしょうか。支援措置などありますか。</p>	<p>それぞれの経営規模や栽培作物などにもよりますが、就農には農地の取得やトラクターなどの作業機械、種苗や肥料など、営農を開始するには設備資金や運転資金、農産収入が入るまでの生活費が必要です。</p> <p>国や市などの支援事業や無利子で借りられる資金などを活用できます（要件あり）が、想定外の出費も予想されますので、就農を希望する方には、300～500万円程度の自己資金を有することが望ましいとお伝えしています。</p>
<p>将来は自ら生産したものを自ら加工して商品開発したいのですが。</p>	<p>生産者が、自ら生産したものを加工・販売する6次産業化を実現している方もおります。</p> <p>6次産業化を目指す方には、国や市の支援策等の情報提供など国や道など関係機関と連携してサポートを行います。</p> <p>また、市内には簡易加工施設もありますので、試作品など加工研究も行うことができます。（加工品によってはできないものもあります。）</p>

質 問	回 答
<p>将来は自らの農場で、農業体験など広く市内外の方を受け入れたいと考えています。</p>	<p>名寄市では、生産者によるグリーンツーリズム推進協議会を組織し、各種学校での農業体験の受け入れを行っています。農業の魅力を消費者に伝えることは、農産物のPRだけではなく、交流を通して自らの農業への誇りや励みになっています。</p>
<p>その他、研修中や就農にあたり、名寄市の支援や仲間づくりなどで参考になることがあれば教えてください。</p>	<p>研修中や就農後には、栽培技術など各種研修会や講習会への参加をはじめ、簿記を学んだり、土壌管理、農業経営、販売・流通など、指導農家や関係機関、団体が連携、協力し、早期定着に向けた支援を行っています。</p> <p>JAでは、各作物毎に生産部会を設置し、同じ作物を作付する農家同士の講習会開催や交流が図られているほか、青年部や女性部では、市内での仲間づくりはもとより、他地域の方との情報交換や交流の場として参加している方も多数いらっしゃいます。</p>